

令和4年度学校自己評価システムシート (埼玉県立幸手桜高等学校)

E36

目指す学校像	夢を語る学校・・・・・・・・卒業後の進路を明確にし、学ぶ意義を理解させる学校 感謝を学ぶ学校・・・・・・・・地域との連携による体験学習を通じ、人の役に立つ尊さを学ぶ学校 使命感をもって巣立つ学校・・社会に貢献できる有為な人材を育成する学校
--------	---

重点目標	1 基礎学力の定着を図るとともに、主体的に学ぶ意欲をもった生徒を育成する。 2 本校の特色・強みを発信するとともに、地域・外部機関と連携した開かれた学校づくりを推進する。 3 計画的・組織的な進路指導を行い、進路意識を高めて進路希望を実現させる。 4 規範意識を醸成させるとともに、学校行事や部活動などを通じて実社会的で自立する力を育成する。
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	9名

学校自己評価							学校関係者評価	
年度目標				年度評価(2月1日現在)			実施日 令和5年2月7日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	<p>〔現状〕 「朝学習」指導は「レディネス」として一定の成果を上げている。一方、一部の生徒の遅刻や学習への取組が不十分となっている。生徒の学習意欲の向上を図り、家庭学習の習慣化を図ることが重要である。</p> <p>〔課題〕 ・文理系と商業系の特色を出し、系列の特色を生かした進路実現を図ること。 ・欠点保有者や学習支援を要する生徒への組織的な対応を教科と年次が連携して取り組むこと。 ・朝学習の監督や生徒実態に即した指導と学習内容の改善を進めること。 ・新学習指導要領を踏まえ、生徒の学力向上に向けた授業改善を進めること。 ・成績不振者の数を減らすとともに成績優秀者の数を増やす。 ・新学習指導要領に則り適切な観点別評価の実施すること。</p>	<p>○基礎学力の定着と授業改善を推進し、生徒の学力向上を図る。</p> <p>○各教員が自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や学力向上のための具体的な授業改善策を明示して取り組む。</p> <p>○育成したい資質・能力、スキルポリシー、評価の観点を周知する。</p> <p>○ICTを効果的に活用した授業に取り組む。</p>	<p>①各年次による巡回指導等を通して、毎時チャイム着席を確認し、規律ある学習環境を確保する。 ②少人数クラス展開や、習熟度授業によるきめ細かな学習指導により学力向上を図る。 ③授業公開週間を活用し、教員相互の授業改善を図る。 ④タブレット端末や、プロジェクトを活用し、生徒の興味や関心を高める授業づくりを推進する。 ⑤各年次が主体となり朝学習の質を高める。 ⑥長期休業中を中心にして、各教科による進学補習、資格取得に向けた補習を充実する。 ⑦自己評価シートに生徒の主体性を育む方策や授業改善策を示し、実践する。 ⑧各教科で評価の観点を明確にし、3観点を適切に評価する。 ⑨新カリキュラムによる指導と学習内容を工夫し、進学への意欲向上を図る。</p>	<p>①②③④⑤⑥学校自己評価アンケートで、学習指導に関する内容の満足度が向上したか。 ②④⑤⑥成績優良者は増加したか。 ②⑤成績不振者は減少したか。 ②④⑤⑥⑦⑩大学入学共通テストの受験者は増加したか。 ④授業改善の取組が推進されたか。 ⑥進学補習や資格取得のための補習や補充授業等の充実が図られたか。 ⑦各分掌のシートで振り返りをさせたか。 ⑧自己評価シートに示された生徒の主体性を育む方策や授業改善策について取り組みがなされたか。 ⑨学習評価が生徒の学習意欲の向上につながったか。</p>	<p>①②③④⑤⑥学習指導による満足度 1年次 88.5% 2年次 86.8% 3年次 87.1% ②④⑤⑥成績優良者 71人→58人 ②⑤ 成績不振者 73人→63人 ②④⑤⑥⑦⑩大学入学共通テストの受験者はなかったが、大学進学率は14%→15%に上昇した。 ④⑧先生方が授業改善の取組をしているか。 1年次 85.1% 2年次 79.8% 3年次 66.2% ⑥進学補習や資格取得のための補習への満足度。 1年次 93.4% 2年次 85.3% 3年次 93.6% ⑦各分掌で今年度の振り返りを行い、来年度への課題・目標を共有した。(1月) ⑨学習評価が生徒の学習意欲の向上につながったか。 1年次 81% 2年次 73.7% 3年次 79.1%</p>	B	<p>校内巡回により授業が時間通りに始められている。また、朝学習により1限授業へのスムーズな移行、遅刻者の減少にもつながっており今後も継続していく必要がある。</p> <p>進学補習や資格取得のための補習など、多くの教員の献身的な取組で実施された。今後も進学実績向上と資格取得への更なる教育活動の充実を図っていく必要がある。また、学習に対する自覚の欠ける生徒への更なる指導が課題であるので、粘り強く指導していくことも求められる。</p> <p>学習評価が生徒の学習意欲の向上につながるよう生徒へのフィードバックや説明を増やしていく必要がある。</p> <p>子どもは学校の授業に満足していますか。(保護者)に対し、「あまり満足していない」の回答 1年次 9.4% 2年次 14.3% 3年次 12.5%</p>	<p>2年次で上位層と下位層の減少が見られた。今後、上位層の学力向上と下位層へのフォローアップが課題ではないか。先生方が授業改善をされているかという質問に対し、年次が上がるに連れて生徒からの評価が厳しくなっている。生徒が主体的に学習できるための工夫をして授業改善を図っていくことが求められてくるのではないかと。お互いに授業を見学しあって切磋琢磨していく必要がある。また、生徒が授業についていけることにより、分りやすい、授業が楽しい、面白いと感じることもあるので予習・復習の徹底を図っていくことも大切なのではないか。</p> <p>保護者への質問で、「子どもは授業に満足しているか」という質問に対し、約90%が満足している状況にあるため、これは素晴らしい結果であるといえる。今後も継続させたい。</p>
2	<p>〔現状〕 コロナ禍による地域のイベントの中止により、R1まで実施してきた連携事業は全て止まっている。感染症の状況を注視しつつ、現状でできる連携事業を模索する必要がある。</p> <p>〔課題〕 ・本校の様々な取組や成果について、積極的に中学生や保護者、県民に発信すること。 ・広報活動を広域的に進め、生徒募集を学校全体で取り組むこと。地域、商工会、大学等との新たな連携を構築すること。</p>	<p>○地域行事への参加と連携による本校教育力の向上、学校説明会等による情報発信の充実を図る。</p> <p>○本校を第1志望とする受検生への丁寧な対応と、積極的な生徒募集活動を展開し、本校志願倍率1.05倍を目指す。</p>	<p>①幸手市や大学との連携を活用し、学習機会を増やす。 ②広報部を中心に中学校訪問や学校説明会等において、学校の特色や系列、そして進路状況等を強調して説明し、具体的な情報発信を行う。 ③HP更新頻度を高め、効果的な情報発信を行う。 ④生徒会や商業系を中心とした地域連携活動を実施する。 ⑤部活動による小学校・中学校・地域との交流を実施する。 ⑥地域の中学校との情報交換の場を活用し、積極的な生徒募集を進める。</p>	<p>①活動を通して得られた教育力を生徒に還元し、成果を広域に情報発信ができたか。 ②⑥本校志願倍率が1.05倍を超えたか。 ③HPの更新回数やアクセス件数が増えたか。また、様々な組織(年次・分掌・部活動等)で更新する対応ができたか。 ④生徒主体の地域連携活動(文化祭・市民祭りの参加)ができたか。 ⑤マーケティング活動を中心に、地域行事に参加し、地域の活力を本校に呼び込むことができたか。</p>	<p>①埼玉新聞、幸手市の広報課、税務署、幸手市教育委員会、テレビ埼玉等へ取材を依頼し、本校の取組を宣伝した。 ②⑥本校志願倍率 0.75→0.79 (12月15日現在) ③4月に本校職員にHPへのアップの研修を行い、そこから各年次、部活動、学校行事等を更新した。 ④幸手市民まつり、幸手市学生演奏祭、幸手市文化祭等の地域連携活動に参加した。特に幸手市民まつりでは約80名の生徒ボランティアが運営に協力するなど、R3に締結した幸手市との連携協定の地域理解も浸透し地域連携強化を進めることができた。 ④⑤2年次生徒対象インターンシップ事業が復活させることができた。また、幸手駅ステーションギャラリーや清掃ボランティアにも参加し、本校に活力を呼び込むことができた。</p>	B	<p>オープンキャンパス、学校説明会、入試説明会、北葛地域連絡協議会、ステーションギャラリー、商工会と連携した授業や部活動の取組等を通して本校の取組をアピールしてきた。今年は新たに塾対象の4校合同説明会も実施した。徐々にはあるが、地域に本校の取組が理解されてきているように感じるが、まだまだ「幸手桜で頑張っていきたい」と感じる生徒の獲得が不十分である。来年度以降も引き続き進学・就職実績を向上させ、本校で頑張っていきたいという生徒の獲得に励んでいきたい。</p>	<p>新型コロナウイルスの影響で学校行事がストップしていたが、今年度はある程度実施でき、かつ地域のイベントにも参加することができてよい傾向と捉えられ。幸手市民まつりでは80人もの生徒ボランティアが集まり、地域連携強化にもつながったのではないかと。今後の本校の入学希望者の増加につながっていけばいいのではないかと。</p> <p>オープンキャンパス、学校説明会、入試説明会、北葛地区中高連携連絡協議会、ステーションギャラリー、塾対象の説明会等様々な取組をしていることが理解できた。是非、「幸手桜で頑張っていきたい」という生徒の獲得に励んでいただきたい。</p>
3	<p>〔現状〕 コロナ禍や大学入試改革等の影響により、進学指導や就職指導に対して先行きが不透明な状況がある。本校生徒のキャリア形成を図るため、最新の情報をもとにキャリア教育の充実をさせることが重要である。</p> <p>〔課題〕 ・感染状況を見極め、健康管理と感染防止対策を図りつつ、インターンシップ等の教育活動により、将来の職業観や就業意欲を高める指導の充実を進めること。 ・キャリアパスポート(手帳を含む)による明確な目標設定や資格取得を生徒に定着させること。 ・進路指導満足度を80%以上にする。</p>	<p>○計画的・組織的な進路指導の実施と生徒全員の進路実現を図る。</p> <p>○生徒のキャリア意識向上のために分掌・年次・教科を横断する体制を構築する。</p> <p>○進路指導のツールを活用する為、教員研修を充実させる。</p>	<p>①手帳による活動の記録を年間を通して習慣化させ、進路活動に役立てる。生徒自身の自己管理能力を高める。 ②進路指導部と年次の連携により、3年間を見据えた進路活動を適切な時期に効果的に実施する。 ③生徒の進路実現に向け、組織的に補習や面接指導等に取り組む。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」を活用し、自己肯定感を確立させると共にキャリア教育を充実させる。 ⑤各クラス担任がキャリアカウンセリングの面談を繰り返し行い、生徒の進路意識を向上させ、進路決定時のミスマッチを防止する。</p>	<p>①②③④⑤学校自己評価アンケートで、進路指導に関する内容の満足度が向上し、意識啓発に結びついたか。 ①②③④⑤進路決定率が向上したか。 ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できたか。また、生徒の満足度はどうだったか。 ⑤生徒、保護者、担任が三位一体となり、ペクトルをあわせ進路指導を行い、進路実現を果たしたか。</p>	<p>①②③④⑤進路指導に関する内容の満足度 1年次 93.4% 2年次 79.9% 3年次 82.3% ①②③④⑤進路決定率87.1% (12月2日現在) ④「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」が年間計画に基づき、実施できた。これにより生徒の社会観、職業観が高まった割合。 1年次 86.7% 2年次 71.3% 3年次 72.6% ⑤三者面談等で生徒・担任・保護者で話し合い、進路の決定を行った。また、11月に実施したPTA全体会にて進路部が本校の様子を保護者へ情報提供した。</p>	A	<p>早期からの準備きめ細やかで継続的な指導が大学、公務員、金融等の試験の合格・内定につなげることができた。一方で、入社辞退者が出てしまふことが今後の課題である。改善策として、学校・生徒・保護者・会社が互いに情報共有に努めるということが挙げられる。</p> <p>3年ぶりにインターンシップが始まった。働く意識と就業意欲を高め来年度以降の就職・進学実績の向上を図ることが求められる。本校が育成したい資質・能力とルーブリックを活用して生徒の育成に励みたい。</p>	<p>進路指導に関する満足度が昨年度が73.7%であったのに対し、今年度は82.3%ということでも10ポイントも上昇したのは喜ばしい結果である。また、1年次、2年次も高い数値なので、これを維持できるように努めていきたい。</p> <p>入社辞退者が出ているようであるが、学校・生徒・保護者・会社が互いに情報共有をしっかりとすることが大切ではないか。今年は幸手桜の卒業生が埼玉県の小学校教員採用試験に合格したそうなので、これからも多くの優秀な生徒を輩出していきたい。</p>
4	<p>〔現状〕 毎朝の校門指導や交通安全指導を行った成果で、生徒たちは落ち着いた学習環境の下、高校生活を送っている。</p> <p>〔課題〕 ・基本的生活習慣の確立と、安全・安心な学校生活を実現するため、更なる学校環境の充実を図ること。 ・明るく元気なあいさつを実行に移すこと。 ・学校行事を活性化し、「幸手桜で頑張りたい」という生徒を一人でも多く集めること。 ・成年年齢の引き下げに伴い、実社会で様々な課題に直面した際、対応できる力を身に付けさせること。</p>	<p>○規範意識の醸成や基本的生活習慣の定着に向けた取組を通じて、生徒の自己管理能力を育み、主体的な学校生活づくりを進める。</p> <p>○部活動の活性化を図るため、地域の中学校などとの合同練習や招待試合等を行う。</p> <p>○挨拶の励行と、地域連携事業やボランティア活動を通して人間性豊かな生徒を育成する。</p>	<p>①基本的生活習慣の定着や安心・安全の学校づくりのため、生徒指導部を中心に、携帯安全教室や薬物乱用防止教室、非行防止教室等を実施する。特に、SNSが起因する生徒間トラブルを防止するため、重点的に指導を行う。 ②生徒指導部と各年次の連携による登下校指導や整容指導、PTAと連携した交通安全指導を継続的に実施する。 ③教育相談員やSSWを活用し、カウンセリングメインを重視した生徒指導を充実させる。 ④成果や結果については報道機関への積極的な情報提供を行う。 ⑤部活動で中心的な役割を果たす生徒たちへの帰属意識高揚を図るための激励会を開催する。 ⑥教員が生徒へ積極的に挨拶をする。 ⑦地域の方とのふれあいやボランティア活動を通じて人格形成を図る。 ⑧校長や各主任の講話で成年年齢引き下げについての情報提供を行う。 ⑨教務部を中心に、皆勤奨励する取組を実施する。</p>	<p>①生徒指導件数が減少するに至ったか。SNSが原因・関係する生徒間トラブルが減少したか。 ②学校自己評価アンケートで、基本的生活習慣及び学習に関する内容の達成状況が向上したか。 ③転退学者数は減少に至ったか。 ④⑤3年間継続し部活動を行う生徒が増えたか。 ⑥生徒の挨拶が定着したか。 ⑦人間性豊かな人格形成が図れたか。 ⑧学校自己評価アンケートで成年年齢引き下げへの理解が深まったか。 ⑨皆勤者数を増やすことができたか。</p>	<p>①生徒指導件数 8件→18件 (12月1日現在) SNSに自分の行為を掲載し、それが周囲の者から報告されたといったケースが多かった。 ②遅刻・欠席をしないで登校しているか。 1年次 97.5% 2年次 93.0% 3年次 98.4% 授業に積極的に取り組んでいるか。 1年次 93.4% 2年次 92.2% 3年次 95.9% ③転退学者数 22名→17名 (12月23日現在) ④⑤3年間継続して部活動を続けた割合 60.5% ⑥生徒の挨拶の定着率 1年次 90.9% 2年次 84.5% 3年次 91.9% ⑦きめ細かな学習指導や生徒の生きる力を育む行事や部活動など様々な教育活動を通じて生徒の人格形成に尽力した。 ⑧正しい言葉づかいができているか。 1年次 91.8% 2年次 84.5% 3年次 92.8% ⑨学校生活で成年年齢引き下げへの理解は深まったか。 1年次 79.3% 2年次 66.7% 3年次 70.9% ⑩皆勤者数 157名→155名 (12月23日現在)</p> <p>本校に入学してよかったですか。(生徒) 1年次 85.1% 2年次 74.5% 3年次 85.5% 本校に入学させてよかったですか。(保護者) 1年次 93.8% 2年次 93.9% 3年次 96.9%</p>	A	<p>昨年度と比較して生徒指導案件が倍増した。SNSにより発覚した件数が増えたからなのか、生徒指導件数が大幅に増えたようである。SNSの使用方法について今後指導していく必要がある。そして「幸手桜で頑張りたい」という強い気持ちを持つ生徒たちを核にして、学校の教育活動の更なる活性化を図っていく。</p> <p>部活動の活躍や各種コンテストの入賞、さらにステーションギャラリーの作品展示など学校PRに大きな貢献を果たした。メディア戦略も含め、幸手市との連携協定の一層の充実を進める必要がある。</p> <p>3年次になると進路意識が高まり、規範意識が高まるようである。今後は、本校に入学してよかったですという項目が年次が上がるにつれて上昇するようにしていきたい。また、生徒と保護者では本校への入学に対しての意識に差があるようである。今後、生徒に幸手桜への帰属意識を高めさせるよう努力していきたい。</p>	<p>今年度は新型コロナウイルスによる自宅学習がなかったため、登校する日が増えたからなのか、生徒指導件数が大幅に増えたようである。SNSの使用方法について今後指導していく必要があると思われる。</p> <p>毎朝、幸手桜高校の近くの交差点で校長先生をはじめ、多くの先生方が挨拶運動と交通安全指導を実施している中で幸手桜高校の生徒の挨拶の定着率は素晴らしいものがある。埼玉県内でもトップクラスにあると思われる。</p> <p>「本校に入学してよかったですか」という質問に対し、高い数値が出ているので良い結果ではないか。年次が上がるに連れて上昇していけるようになれば更に良いのではないかと。また、保護者からの評価が90%以上になっているので今後この数値が維持できるような保護者と連携して地域を牽引していける幸手桜高校であってほしい。</p> <p>幸手桜の授業はディスカッションの授業が多く、自分の意見や考え方を伝える場があるので、自身を見つめ直す機会になってよい。また、クラスに団結力が生まれて雰囲気も良くなるのでこれからも継続していききたい。</p>